緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより　2020.7.13

ふるさと新宮の想いを胸に

何度かお話しましたが、私は平成１４年度より平成１９年度まで新宮中学校に勤めていました。その６年間は、その後の私の教職人生に大きな影響を与え、新宮を第２の故郷のように感じています。新宮中では、教科指導や部活動指導など多くのことを学ばせていただきました。その時学んだ中で、一番強く心に残っているのは、故郷を好きだと思う気持ちの大切さです。当時の新宮の生徒も、みんな新宮のことが大好きでした。それまで勤めてきた中学校では、地域のことを意識することはほとんどなかったので、そのことに大変驚きました。自己肯定感という言葉がありますが、自分が好き、自分の学校が好き、自分の地域が好きな子供を育てることはとても大切なことだと気付かされました。自分の故郷を好きと思える子に育てば、自ずと学校が好き、自分が好きと言える子になると思います。自分を、学校を、地域を誇れることはとても大切なことです。そのような子を育てなければ、地域や社会がよくなることはありません。地域に残って地域を守り盛り上げる子どもや、例え地域を離れても、故郷のことを思い、故郷に思いをはせる子どもを育てることが大切であるということを学ばせていただき、それは私が理想とする学校の一つの姿となっています。

さて、当時の生徒が新宮を好きな理由として挙げたのは何だったと思いますか？予想してみてください。「豊かな自然」や「新宮茶」という理由はもちろんありました。（当時は、霧の森大福は創成期で、まだ全国区になる前でした。）一番多かった理由は、新宮の「人」だったのです。新宮の人の優しさ、あるいは「石ころ橋」「ふるさとに学ぶ」を教材化したのも当時でしたが、そういう先人の想いを学んだこともあって、新宮を好きな理由は「人」だという答えが一番だったのです。それは、私にとっては大きな衝撃だったことをはっきりと覚えています。新宮の人のやさしさや温かさ、地域をあげて子供を大切に思い育てる土地柄が子どもたちに伝わっていましたし、子どもたちが感じ取っていたということです。そして、１２年ぶりに新宮に帰ってきましたが、多くの方の温かいお声掛けの数々に、年月が経っても新宮の人の温かさは変わっていないと感じたところです。

新宮小・中学校の目指す児童・生徒像は、「学び続ける子」「つながり合う子」「ふるさとを愛する子」です。「ふるさとを愛する子」をしっかりと育てていきたいと思います。新宮地域在住の子供たちはもちろん、小規模特認校制度で通っている子どもたちもきっと、皆、新宮を大好きになり、第２の故郷と思ってくれるようになるでしょう。そして、新宮地区以外に住んでいる人は、自分の住んでいる地域の良さも、ぜひ新宮在住のお友達に伝えて欲しいと思っています。新宮小・中学校に通うすべての子どもたちがふるさとを誇りに思う児童生徒に育って卒業してもらえるように頑張りたいと思います。